

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第3回）

＜両磐ブロック＞

日時：令和元年8月6日（火）

14:00～16:00

会場：一関保健センター

1階 多目的ホール

【次第】

- 1 開会
- 2 県教育委員会挨拶
- 3 両磐ブロックの状況について
- 4 後期計画策定に向けた意見交換
 - ◆ テーマ
各地域における学校・学科の配置について
- 5 その他
- 6 閉会

■ 後期計画策定に向けた意見交換（両磐ブロック）

[後期計画における高校教育の目指す方向性（案）]

- ・ AI や IoT 等の急速な技術革新の進展による教育環境の変化や学習指導要領の改訂等、高校教育を取り巻く現状を踏まえ、望ましい学校規模の確保による「教育の質の保証」と本県の地理的状況等を踏まえた「教育の機会の保障」を大きな柱とした高校再編を進めながら、新時代に対応した「社会を創造する人づくり」の実現を目指す。

[テーマ]

各地域における学校、学科の配置について

(1) 両磐ブロックの現状

- ・ 全日制課程については、県立高校は普通高校 4 校（専門学科併置校 3 校を含む）、専門高校 1 校（工業）、総合学科高校 1 校の 6 校設置しています。また、高等専門学校 1 校と、私立高校 2 校があります。
- ・ 定時制課程については、夜間定時制課程を一関第一高校に併設しています。

(2) 両磐ブロックの課題等

- これまでの地域検討会議において、学科等に関する意見としては、「学科等の見直しにより、特徴のある専門学科の設置を検討する必要があるのではないか」や「農業や工業については特色のある学科等を増やすべきではないか」等がありました。
- 平成 30 年度に実施した中学生アンケートにおいて、総合学科希望者の割合が、前回（H27 年度実施）と比較して増加している一方、普通科系、工業科希望者の割合がやや減少しています。
- 平成 31 年度入試における、両磐ブロックの定員充足率は 87.2%（県平均 85.1%）で、6 校中 5 校で欠員が生じています。
- ブロック間の交流について、過去 3 年間（H29～31 年度）の平均を見ると、他のブロック等から転入した生徒が 174.3 人、他のブロック等へ転出した生徒が 71.7 人となっており、他のブロック等からの転入が 102.6 人上回っています。
- 平成 31 年 3 月の中学校卒業生数は 1,164 人で、後期計画最終年の令和 7 年 3 月の中学校卒業予定者数は 958 人（17.7%減）、令和 15 年 3 月には、694 人（40.4%減）となる見込みです。今後、中学校卒業生数の減少により、各校の入学者が減少するものと見込まれ、学校規模が縮小していくものと予想されます。

(3) 議論の方向性

- 現状を踏まえ、今後、両磐ブロックにおける必要な学校・学科について、御意見を伺います。
- 中学校卒業生数については、後期計画終了後もさらに減少していくことが見込まれる中、可能な限り現在の学校を維持する観点から、学級数の調整で対応する考え方と、学校の活力向上の観点から、学校統合で対応する考え方があります。これらの考え方について、両磐ブロックの現状を踏まえた具体的な御意見を伺います。

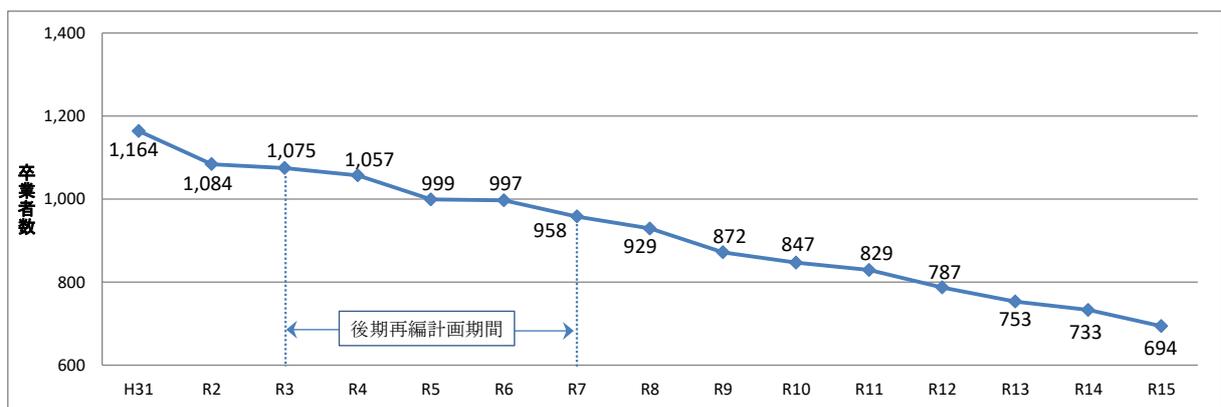
[両磐ブロックの状況について]

1 中学校卒業者の推移（県内ブロックごと）

	中段:対前年比 下段:対H31年比														
	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3	R8.3	R9.3	R10.3	R11.3	R12.3	R13.3	R14.3	R15.3
盛岡	4,263	4,175	3,901	4,189	4,023	3,997	4,000	3,964	3,803	3,749	3,517	3,427	3,487	3,479	3,307
		-88	-274	288	-166	-26	3	-36	-161	-54	-232	-90	60	-8	-172
		-88	-362	-74	-240	-266	-263	-299	-460	-514	-746	-836	-776	-784	-956
岩手 中部	1,879	1,754	1,690	1,669	1,667	1,736	1,601	1,586	1,504	1,483	1,462	1,414	1,366	1,353	1,297
		-125	-64	-21	-2	69	-135	-15	-82	-21	-21	-48	-48	-13	-56
		-125	-189	-210	-212	-143	-278	-293	-375	-396	-417	-465	-513	-526	-582
胆江	1,166	1,174	1,045	1,117	1,117	1,091	1,018	1,067	1,043	971	944	914	914	897	861
		8	-129	72	0	-26	-73	49	-24	-72	-27	-30	0	-17	-36
		8	-121	-49	-49	-75	-148	-99	-123	-195	-222	-252	-252	-269	-305
両磐	1,164	1,084	1,075	1,057	999	997	958	929	872	847	829	787	753	733	694
		-80	-9	-18	-58	-2	-39	-29	-57	-25	-18	-42	-34	-20	-39
		-80	-89	-107	-165	-167	-206	-235	-292	-317	-335	-377	-411	-431	-470
気仙	499	467	438	415	396	406	421	380	354	372	343	355	353	351	330
		-32	-29	-23	-19	10	15	-41	-26	18	-29	12	-2	-2	-21
		-32	-61	-84	-103	-93	-78	-119	-145	-127	-156	-144	-146	-148	-169
釜石 ・遠野	572	527	519	532	522	483	508	454	466	504	465	448	433	412	409
		-45	-8	13	-10	-39	25	-54	12	38	-39	-17	-15	-21	-3
		-45	-53	-40	-50	-89	-64	-118	-106	-68	-107	-124	-139	-160	-163
宮古	652	574	580	553	621	574	511	498	549	538	495	478	507	504	475
		-78	6	-27	68	-47	-63	-13	51	-11	-43	-17	29	-3	-29
		-78	-72	-99	-31	-78	-141	-154	-103	-114	-157	-174	-145	-148	-177
久慈	509	504	449	456	474	427	461	427	422	410	408	382	353	346	326
		-5	-55	7	18	-47	34	-34	-5	-12	-2	-26	-29	-7	-20
		-5	-60	-53	-35	-82	-48	-82	-87	-99	-101	-127	-156	-163	-183
二戸	430	419	398	416	386	351	371	355	349	359	329	289	280	279	273
		-11	-21	18	-30	-35	20	-16	-6	10	-30	-40	-9	-1	-6
		-11	-32	-14	-44	-79	-59	-75	-81	-71	-101	-141	-150	-151	-157
全 県	11,134	10,678	10,095	10,404	10,205	10,062	9,849	9,660	9,362	9,233	8,792	8,494	8,446	8,354	7,972
		-456	-583	309	-199	-143	-213	-189	-298	-129	-441	-298	-48	-92	-382
		-456	-1,039	-730	-929	-1,072	-1,285	-1,474	-1,772	-1,901	-2,342	-2,640	-2,688	-2,780	-3,162
	卒業者	現中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1					

2 中学校卒業者の推移（両磐ブロック内の市町村ごと）

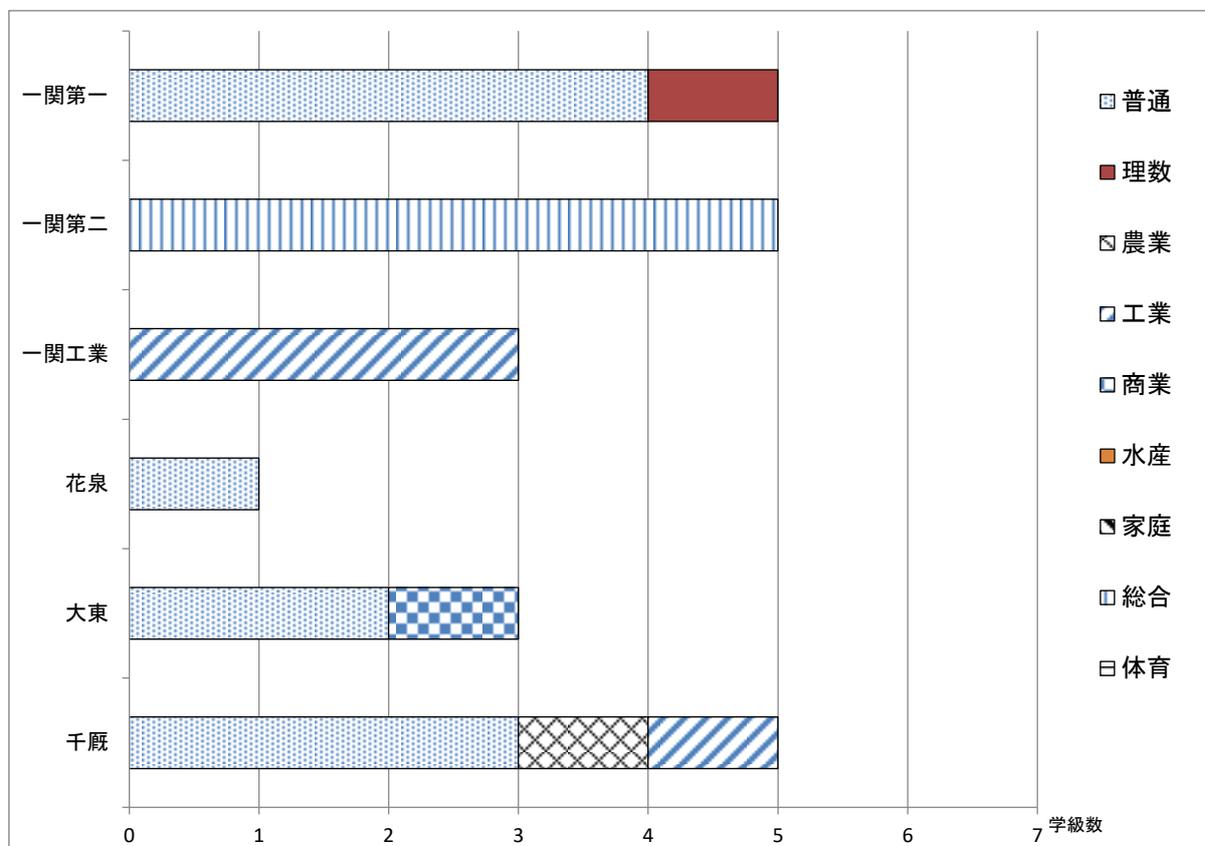
	中段:対前年比 下段:対H31年比														
	H31.3	R2.3	R3.3	R4.3	R5.3	R6.3	R7.3	R8.3	R9.3	R10.3	R11.3	R12.3	R13.3	R14.3	R15.3
両 磐	1,164	1,084	1,075	1,057	999	997	958	929	872	847	829	787	753	733	694
		-80	-9	-18	-58	-2	-39	-29	-57	-25	-18	-42	-34	-20	-39
ブロック計		-80	-89	-107	-165	-167	-206	-235	-292	-317	-335	-377	-411	-431	-470
一関市	1,104	1,014	1,012	990	938	939	890	877	819	791	772	724	694	687	649
		-90	-2	-22	-52	1	-49	-13	-58	-28	-19	-48	-30	-7	-38
		-90	-92	-114	-166	-165	-214	-227	-285	-313	-332	-380	-410	-417	-455
平泉町	60	70	63	67	61	58	68	52	53	56	57	63	59	46	45
		10	-7	4	-6	-3	10	-16	1	3	1	6	-4	-13	-1
		10	3	7	1	-2	8	-8	-7	-4	-3	3	-1	-14	-15
	卒業者	現中3	中2	中1	小6	小5	小4	小3	小2	小1					



3 公立高校の設置学科及び学級数の状況（令和2年度）

学校名	学科	定員	学級数	設置学科（定員）
一関第一	普・理	200	5	普通科(160)、理数科(40)
一関第二	総	200	5	総合学科(200) ※人文、自然、福祉、環境・生活、ビジネスの5系列あり。
一関工業	工	120	3	電気電子科(40)、電子機械科(40)、土木科(40)
花 泉	普	40	1	普通科(40)
大 東	普・商	120	3	普通科(80)、【商業】情報ビジネス科(40)
千 厩	普・農・工	200	5	普通科(120)、【農業】生産技術科(40)、【工業】産業技術科(40)

880 22



学科	普通	理数	農業	工業	商業	水産	家庭	総合	体育	計
学級数	10	1	1	4	1	0	0	5	0	22
定員	400	40	40	160	40	0	0	200	0	880

県立高校の教育課程の形態

◆ 普通高校

普通教育を主とする普通科高校。(学級単位で専門科目を学べるコースを設けている学校もある。)《盛岡第一高校、盛岡第二高校 等》

◆ 総合選択制高校

普通科にいくつかの「学系」を設け、生徒が自分の興味・関心、進路希望に応じて各学系に入学し学習するとともに、必要に応じて他の学系の教科・科目も選択できるなど幅広く学習できる普通高校。

《不来方高校、花巻南高校》

◆ 総合学科高校

進路に応じる複数の「系列」があり、2年次から「系列」や普通教科と専門教科のどちらも選択でき、総合的に学ぶことができる単位制高校。

《紫波総合高校、北上翔南高校、岩谷堂高校、一関第二高校、久慈東高校、一戸高校》

◆ 専門高校

農業、工業、商業、水産、家庭等の専門教科を主として学ぶ専門学科高校。

《盛岡農業高校、盛岡工業高校 等》

◆ 総合的な専門高校

複数の専門学科を併設し、所属する学科の科目以外に、関連する他の専門分野の教科・科目を併せて履修することができる専門高校。

《花北青雲高校、大船渡東高校、釜石商工高校》

◆ 定時制課程・通信制課程

定時制課程は、夜間又は特別な時間帯等に授業を行なう課程。通信制課程は、通信の方法により高校教育を行う課程。

《古宮高校定時制課程、杜陵高校通信制課程 等》

◆ 多部制・単位制高校

特定の時間帯で授業を行なう課程(部)を複数組み合わせ設置し、生徒がいずれかの時間帯に所属して学ぶことができる単位制の定時制高校。

《杜陵高校、杜陵高校奥州校、久慈高校長内校》

◆ 中高一貫教育校

中学校と高校の課程を調整し、一貫性を持たせた体系的な教育方式を行っている学校。

《併設型：一関第一高校附属中学校》

《連携型：葛巻地区、軽米地区》

<教育課程の形態等(例)>

普通高校	必修		選択
	普通教科・科目		芸術 等

* 普通科、理数科、体育科を含む。 ※コース制は、必修に特定の専門科目が含まれる。

総合選択制高校	学系	必修		選択		
		共通	学系内	学系内	自由	
	人文理数	普通教科・科目	普通教科・科目	専門科目	他の学系の科目、普通専門科目	
	芸術	〃	〃	〃		
	外国語	〃	〃	〃		
体育	〃	〃	〃			

総合学科高校	系列例	必修	選択	
		普通教科・科目	系列選択科目	自由選択科目
	人文科学 自然科学 生活・福祉 情報・経済 環境緑化 海洋科学	普通教科・科目 原則履修 産業社会と人間	人文→地理A 等 自然→数学Ⅲ 等 生活→服飾手芸 等 情報→簿記 等 環境→草花 等 海洋→漁船運用 等	倫理 スポーツ ビジュアルデザイン 音楽理論 生活の書 他多数

専門高校	必修		選択
	普通教科・科目	専門科目	専門科目・芸術 等

総合的な専門高校	学科	必修		選択	
	農業	普通教科・科目	農業科目	他分野の専門科目	芸術 等
	工業		工業科目		
	商業		商業科目		

定時制課程	(夜間又は特別な時間帯等に授業)	夜間
		17時～21時

※ 時間帯を長くして、科目を多く設定し、履修させることにより3年で卒業可能な学校がある。

通信制課程	レポート(自宅学習)主体、スクーリング(面接指導)、試験で単位取得
-------	-----------------------------------

多部制・単位制高校	午前部	午後部	夜間部
	9時～13時	13時～17時	17時～21時

※ 特定の時間帯を複数設置、単位制で生徒個々に時間割を決められる。

※ 所属する部以外の部の科目を履修することで、3年で卒業も可能。

併設型中高一貫教育校	(選抜)	中学校	(無選抜)	高等学校
------------	------	-----	-------	------

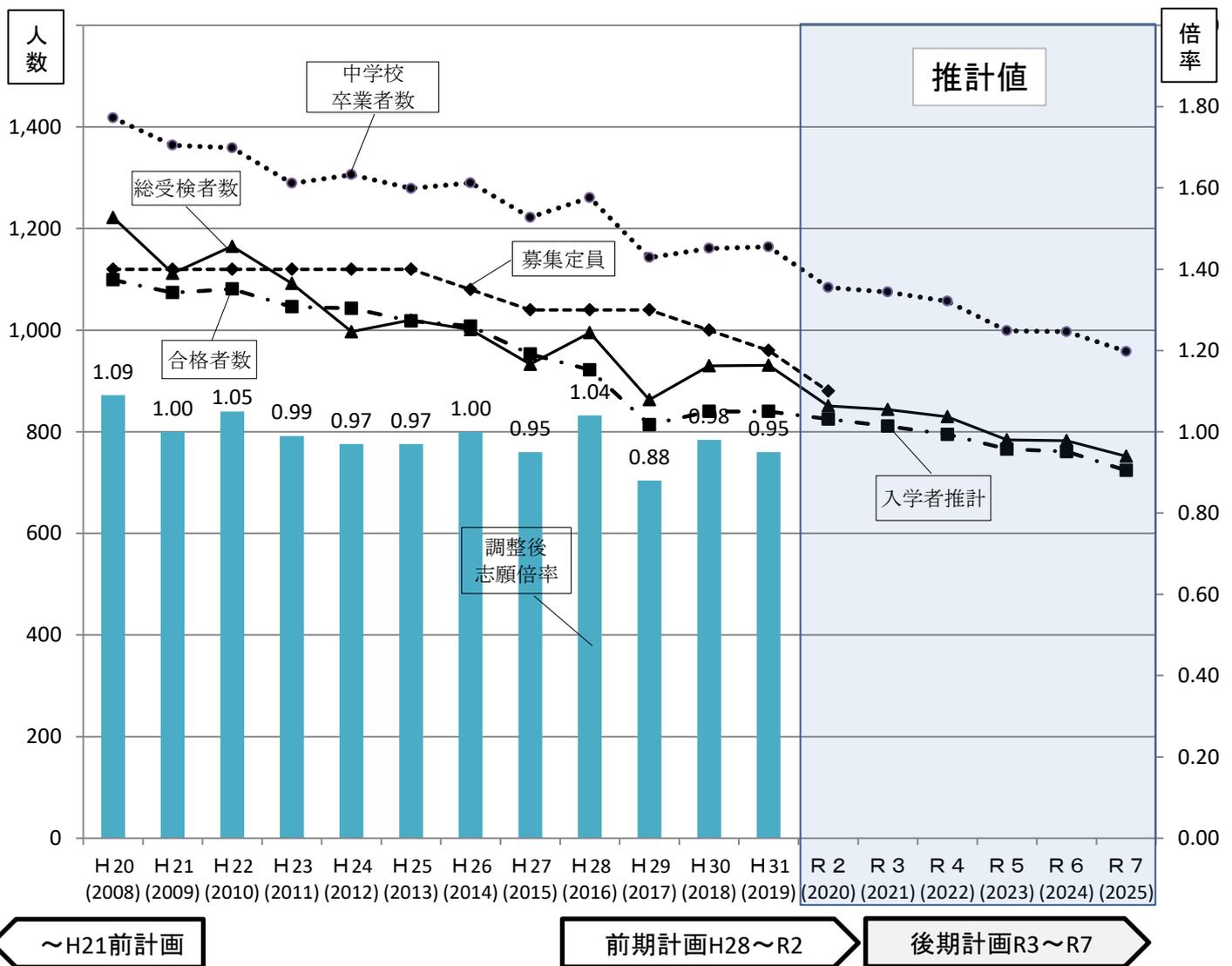
※ 中学校の設置形態の違いにより、同一学校型(中等教育学校)、併設型、連携型の3種類がある。

県立高校(全日制)の入試状況の推移(両磐ブロック)

年 度	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	H31 (2019)	R 2 (2020)	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)
中学校 卒業生数	1,418	1,364	1,359	1,289	1,306	1,279	1,290	1,222	1,261	1,143	1,161	1,164	1,084	1,075	1,057	999	997	958
募集定員	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120	1,120	1,080	1,040	1,040	1,040	1,000	960	880	—	—	—	—	—
合格者数 (入学者推計)	1,099	1,074	1,081	1,046	1,043	1,018	1,008	953	922	814	840	840	825	811	795	766	761	724
総受検者数	1,222	1,112	1,165	1,092	997	1,020	1,001	933	995	863	930	931	851	844	830	784	783	752
欠 員	▲21	▲46	▲39	▲74	▲77	▲102	▲72	▲87	▲118	▲226	▲160	▲120	—	—	—	—	—	—
調整後 志願倍率	1.09	1.00	1.05	0.99	0.97	0.97	1.00	0.95	1.04	0.88	0.98	0.95	—	—	—	—	—	—

※合格者数、総受検者数には内進者を含む

※令和2年度以降の入学者推計はH29～31年度の3年間の進学率を基にした推計値

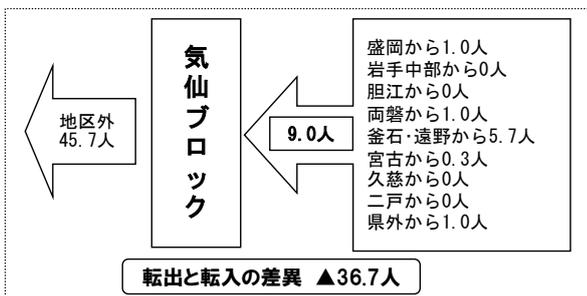
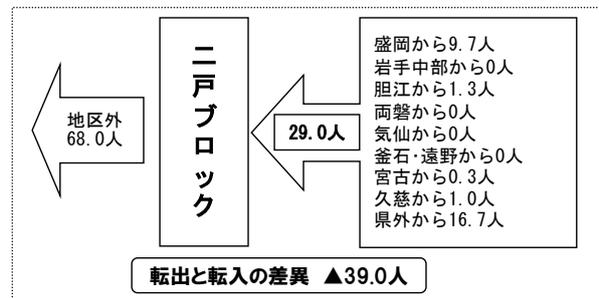
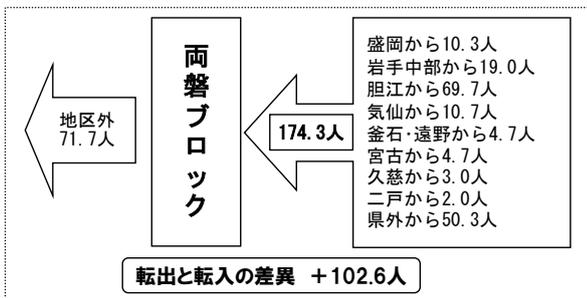
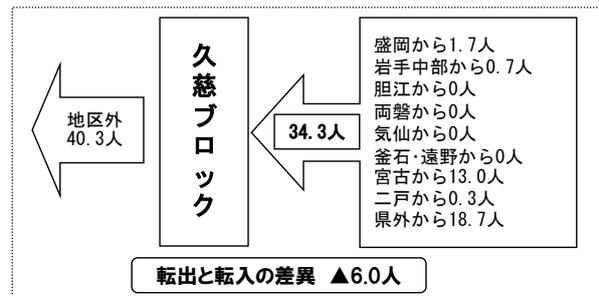
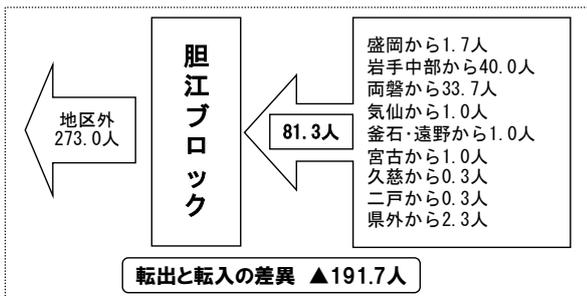
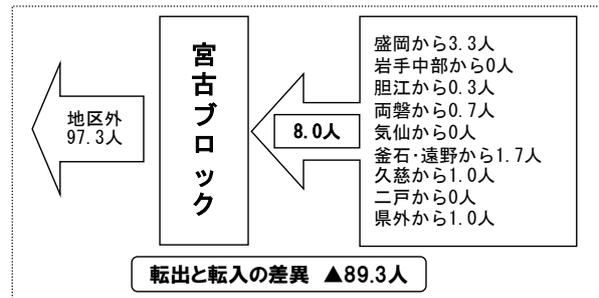
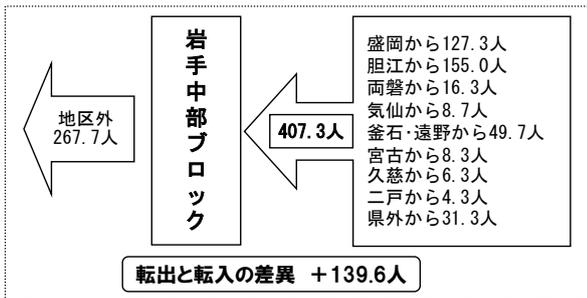
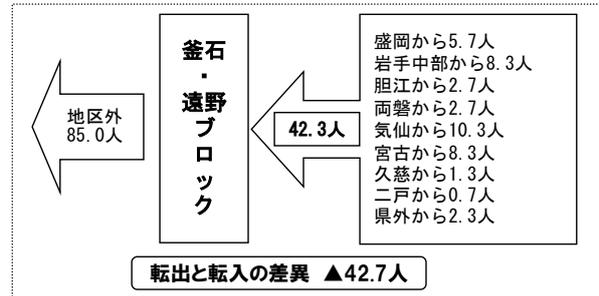
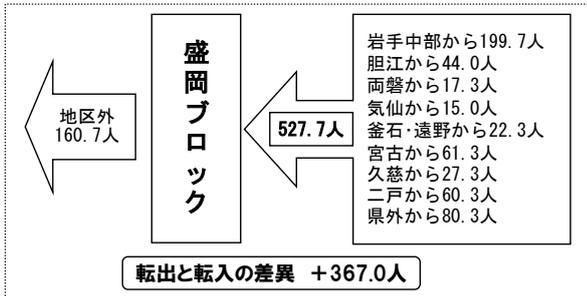


ブロック間交流の状況（3年間(H29・30・31年度)の平均）

※ 公立高校の全日制・定時制及び私立高校を対象（過年度卒を含む）

※ 転入 ⇒ 他のブロック及び県外からの転入者数

※ 転出 ⇒ 他のブロックへの転出者数（県外転出を除く）



中学生の進路希望等に関するアンケート結果

調査の概要

- (1) 調査対象 県内国公立中学校第3学年及び義務教育学校第9学年の生徒 (161校 11,074人)
 (参考) H27: 県内公立各中学校第3学年の1学級を抽出 165学級4,546人
- (2) 調査時期 平成30年7月6日～8月3日

質問1 卒業後の進路をどのように考えていますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	10,468	3,937	1,779	1,111	1,112	474	548	615	476	416
① 全日制の公立高校		82.9%	84.4%	81.5%	76.0%	81.2%	86.5%	85.8%	85.5%	83.8%	84.9%
② 全日制の私立高校		9.1%	9.4%	10.3%	12.8%	9.9%	5.5%	6.6%	4.4%	5.5%	6.5%
③ 高等専門学校(高専)		2.7%	1.8%	2.6%	4.5%	3.6%	2.5%	2.4%	4.2%	2.9%	2.9%
④ 定時制の高校		0.6%	0.4%	0.4%	1.0%	0.5%	0.6%	0.9%	1.0%	1.9%	1.0%
⑤ 通信制の高校		0.2%	0.2%	0.2%	0.2%	0.4%	0.2%	0.4%	0.0%	0.2%	0.7%
⑥ 就職(含 家業)		0.1%	0.1%	0.2%	0.1%	0.1%	0.0%	0.2%	0.2%	0.0%	0.0%
⑦ その他(含 専門学校など)		0.3%	0.3%	0.1%	0.5%	0.2%	0.4%	0.0%	0.3%	1.1%	1.0%
⑧ まだわからない		4.1%	3.5%	4.7%	5.0%	4.0%	4.2%	3.8%	4.4%	4.6%	3.1%

質問2 進学先として質問1で答えた学校を希望する(考えた)最も大きな理由は何ですか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,967	3,774	1,683	1,046	1,059	449	526	585	446	399
① 学びたい学科があるから		17.7%	16.5%	20.4%	22.5%	19.2%	15.8%	10.8%	17.8%	15.2%	15.5%
② 部活動が盛んだから		15.1%	16.9%	16.2%	14.1%	12.8%	12.7%	14.8%	10.4%	13.7%	14.3%
③ 進学・就職に有利だと思うから		45.1%	46.5%	46.9%	45.0%	42.3%	42.5%	44.3%	46.7%	45.5%	32.1%
④ 地元の学校だから		9.3%	5.4%	5.8%	5.3%	12.6%	17.6%	20.9%	14.5%	16.6%	22.3%
⑤ 働きながら学べるから		0.5%	0.3%	0.2%	0.7%	0.8%	0.2%	1.0%	0.7%	1.1%	0.3%
⑥ 家族・親・先生がすすめてくれるから		4.0%	4.3%	3.3%	4.9%	4.8%	4.0%	2.9%	3.1%	2.2%	4.5%
⑦ 雰囲気やイメージがよいから		5.1%	6.5%	4.8%	4.6%	3.5%	4.5%	2.5%	3.1%	3.6%	8.0%
⑧ その他		3.2%	3.6%	2.4%	3.0%	4.1%	2.7%	2.9%	3.8%	2.0%	3.0%

質問3 進学先としてどの学科を希望しますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,987	3,780	1,687	1,047	1,063	452	526	585	448	399
① 普通科		56.0%	64.6%	48.2%	44.3%	42.8%	67.9%	61.2%	57.6%	53.1%	54.1%
② 理数科		3.1%	2.7%	2.4%	3.9%	7.0%	0.7%	5.9%	0.9%	0.7%	2.0%
③ 外国語に関する学系		1.1%	0.9%	2.9%	0.7%	0.6%	0.7%	0.6%	0.5%	0.4%	0.5%
④ 体育に関する学科・学系		2.5%	3.4%	4.4%	1.5%	1.1%	1.5%	1.5%	0.2%	1.1%	0.5%
⑤ 芸術に関する学系		1.0%	1.3%	0.6%	1.2%	0.7%	0.9%	0.6%	0.2%	0.9%	1.3%
⑥ 農業に関する学科		2.9%	2.8%	5.3%	1.8%	2.5%	2.2%	2.7%	1.0%	0.9%	3.8%
⑦ 工業に関する学科		10.4%	6.9%	11.9%	17.9%	14.3%	8.8%	11.2%	8.5%	7.4%	14.3%
⑧ 商業に関する学科		6.3%	7.5%	6.1%	6.9%	2.2%	4.4%	5.5%	16.1%	0.4%	0.5%
⑨ 水産に関する学科		0.3%	0.1%	0.0%	0.1%	0.0%	1.5%	0.0%	2.2%	1.8%	0.0%
⑩ 家庭に関する学科		2.7%	2.0%	4.0%	3.1%	2.8%	3.8%	1.1%	3.9%	2.5%	2.5%
⑪ 総合学科		6.9%	1.9%	8.1%	11.8%	18.8%	1.3%	2.3%	0.3%	19.2%	12.5%
⑫ どの学科でもよい		1.2%	1.1%	1.1%	1.7%	1.1%	0.7%	1.5%	1.9%	1.3%	0.8%
⑬ その他		1.4%	1.7%	0.7%	1.0%	1.9%	1.1%	1.0%	1.2%	2.0%	0.8%
⑭ わからない		4.2%	3.1%	4.4%	4.1%	4.2%	4.4%	4.9%	5.5%	8.3%	6.5%

質問4 進学したい学校に当てはまるのはどれですか。 ※質問3で「普通科・理数科」と答えた中で、県立高校を希望する生徒のみ回答(盛岡市立を除く)

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	4,912	2,093	723	388	434	272	306	296	207	193
① 学区内にある		79.2%	84.5%	71.6%	68.8%	81.3%	88.2%	81.7%	76.7%	70.0%	63.2%
② 学区外にある		14.0%	9.9%	22.1%	22.2%	13.8%	6.6%	12.4%	14.9%	15.5%	23.3%
③ その他		1.3%	1.0%	0.1%	1.3%	1.6%	0.7%	0.3%	0.3%	8.7%	3.6%
④ まだ決まっていない		5.5%	4.6%	6.1%	7.7%	3.2%	4.4%	5.6%	8.1%	5.8%	9.8%

質問5 高校の学びについて、あなたの考えに近いものはどれですか。 ※質問3で専門学科及び総合学科と答えた生徒のみ回答

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	2,848	778	570	421	412	97	118	184	143	125
① 専門分野を学びたい		58.2%	63.8%	57.0%	53.7%	51.9%	68.0%	53.4%	65.2%	51.7%	59.2%
② 専門分野以外も学びたい		14.8%	16.1%	16.1%	16.6%	10.9%	15.5%	14.4%	10.9%	9.8%	19.2%
③ 入学後に専門分野を決めてから学びたい		13.4%	8.9%	13.3%	15.2%	21.8%	6.2%	13.6%	11.4%	18.2%	11.2%
④ よくわからない		13.6%	11.3%	13.5%	14.5%	15.3%	10.3%	18.6%	12.5%	20.3%	10.4%

質問6 高校での部活動について、あなたの考え方に当てはまるものはどれですか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,941	3,763	1,674	1,040	1,063	451	524	583	446	397
① 入部したい部を決めている		48.6%	47.3%	51.9%	52.9%	48.1%	47.7%	47.7%	43.1%	43.9%	53.1%
② 入学後、多くの部の中から見学等を通して選びたい		42.4%	44.0%	39.1%	37.9%	42.8%	41.9%	44.1%	47.0%	46.9%	38.3%
③ ①、②のどちらでもない		3.1%	3.3%	3.5%	3.1%	2.9%	3.3%	2.1%	2.4%	3.4%	2.3%
④ わからない		5.9%	5.4%	5.6%	6.2%	6.2%	7.1%	6.1%	7.5%	5.8%	6.3%

質問7 通学の範囲をどの程度まで可能と考えていますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,955	3,767	1,679	1,042	1,061	452	524	584	448	398
① 主に徒歩、自転車等で通学可能な範囲まで		29.2%	34.0%	26.6%	24.7%	31.1%	21.5%	24.4%	24.5%	32.8%	19.6%
② 主にバス、列車で通学可能な範囲まで		43.2%	47.6%	48.4%	37.6%	38.5%	35.8%	45.6%	40.9%	28.8%	30.7%
③ 保護者が自家用車で送迎できる範囲まで		16.4%	9.5%	15.0%	26.0%	19.5%	30.5%	16.2%	16.8%	23.7%	29.9%
④ 自宅から通学できない範囲でもよい		5.0%	3.9%	4.7%	4.6%	5.7%	7.5%	6.3%	6.5%	5.8%	8.3%
⑤ その他		0.8%	0.7%	0.8%	1.2%	0.5%	0.7%	0.8%	1.4%	0.2%	1.5%
⑥ わからない		5.4%	4.4%	4.5%	6.0%	4.7%	4.0%	6.7%	9.9%	8.7%	10.1%

質問8 通学(片道)にかけてもよいと思う時間をどの程度までと考えますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,953	3,765	1,678	1,046	1,059	452	524	583	448	398
① 30分以内まで		28.1%	23.1%	27.6%	29.5%	29.8%	34.3%	33.8%	36.2%	37.7%	33.4%
② 1時間以内まで		51.8%	57.8%	51.8%	50.9%	47.4%	49.8%	43.7%	43.7%	42.6%	44.5%
③ 1時間30分以内まで		10.2%	11.8%	10.5%	9.5%	11.0%	6.0%	9.0%	7.0%	8.0%	8.0%
④ 2時間以内まで		2.3%	2.3%	2.3%	1.9%	3.3%	1.5%	2.3%	1.7%	2.9%	1.8%
⑤ その他		1.0%	0.7%	1.3%	1.0%	1.3%	1.8%	1.3%	0.3%	0.7%	2.0%
⑥ わからない		6.5%	4.4%	6.4%	7.3%	7.2%	6.6%	9.9%	11.0%	8.0%	10.3%

質問9 高校で勉強や部活動をする上で、どれくらいの規模(学級数)の高校がよいと思いますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,955	3,767	1,679	1,044	1,061	451	524	584	447	398
① 各学年、1学級(40人)規模の高校		9.1%	7.6%	8.9%	7.7%	8.6%	11.1%	11.6%	15.4%	12.1%	10.3%
② 各学年、2~3学級(80~120人)規模の高校		21.8%	14.6%	22.0%	24.9%	28.6%	25.5%	32.4%	26.7%	24.4%	34.4%
③ 各学年、4~6学級(160~240人)規模の高校		41.4%	40.8%	47.5%	45.6%	42.8%	44.8%	32.1%	31.2%	39.4%	32.9%
④ 各学年、7学級以上(280人以上)の規模の高校		8.1%	16.8%	3.7%	2.6%	1.7%	1.3%	2.5%	4.3%	1.6%	3.5%
⑤ その他		0.4%	0.5%	0.1%	0.5%	0.6%	0.2%	0.4%	0.7%	0.2%	1.3%
⑥ わからない		19.2%	19.7%	17.8%	18.8%	17.8%	17.1%	21.0%	21.7%	22.4%	17.6%

質問10 高校卒業後の進路についてどのように考えていますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	9,957	3,764	1,682	1,045	1,062	451	524	584	447	398
① 大学・短大へ進学したい		35.9%	42.3%	33.4%	32.0%	31.2%	35.7%	34.4%	29.3%	28.4%	30.7%
② 専門学校(専修学校、各種学校)へ進学したい		15.6%	14.2%	17.5%	15.2%	15.2%	14.9%	17.2%	15.8%	16.6%	21.6%
③ 進学したいと思っているが、大学か短大か専門学校かは未定である		13.7%	13.9%	12.4%	14.7%	15.3%	18.6%	8.0%	13.5%	13.0%	14.1%
④ 岩手県内で就職したい		7.5%	6.8%	9.6%	6.4%	6.0%	6.4%	10.9%	9.1%	7.6%	6.3%
⑤ 岩手県外で就職したい		2.5%	1.7%	1.9%	2.8%	4.7%	2.7%	2.7%	4.6%	2.5%	2.8%
⑥ 就職したいが、岩手県内か県外かは未定である		8.7%	6.3%	10.9%	9.8%	11.5%	5.5%	10.3%	9.6%	9.2%	11.1%
⑦ まだわからない		16.0%	14.8%	14.3%	19.1%	16.1%	16.2%	16.6%	18.2%	22.8%	13.6%

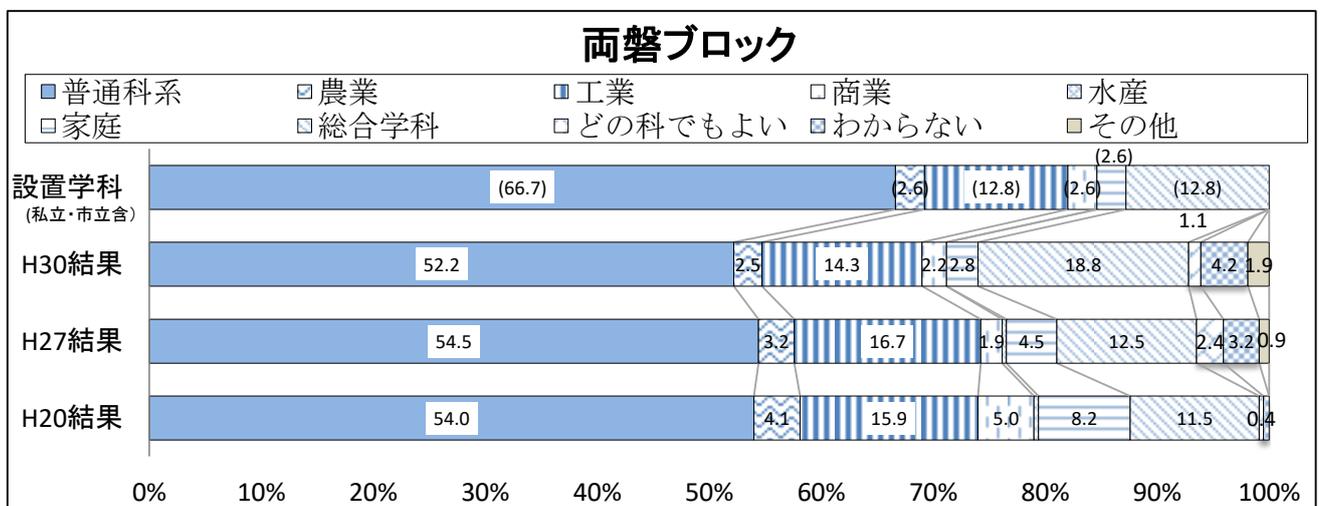
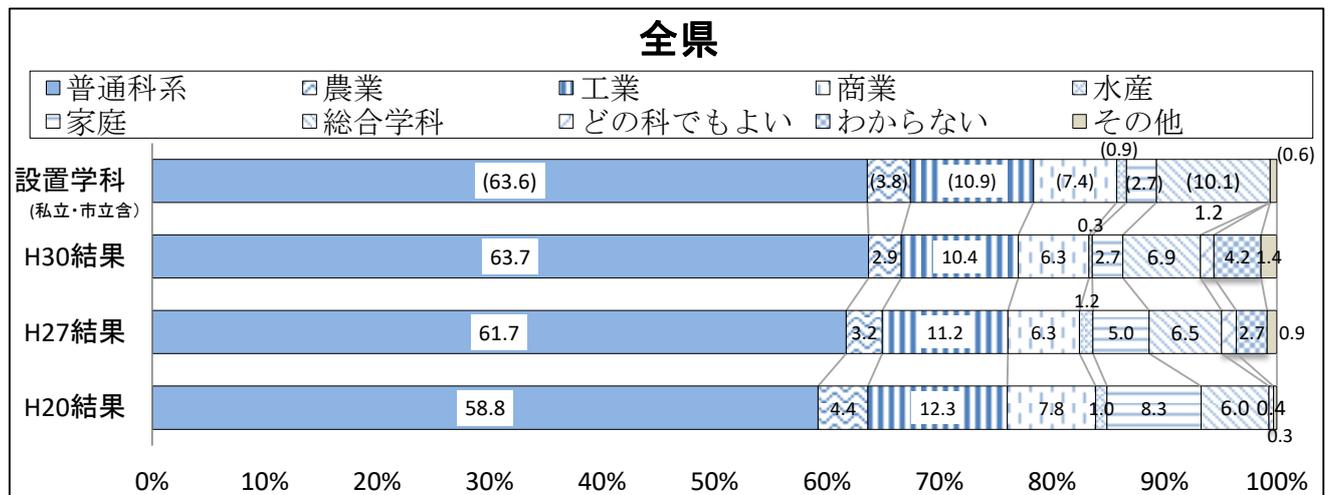
質問11 10年後どこに住んでいると思いますか。

選択肢	ブロック	全県	盛岡	岩手中部	胆江	両磐	気仙	釜石遠野	宮古	久慈	二戸
	回答数	10,468	3,937	1,779	1,111	1,112	474	548	615	476	416
① 今住んでいる市町村に住んでいる		11.3%	12.9%	12.8%	9.1%	8.4%	13.1%	10.2%	10.2%	9.9%	7.7%
② 岩手県内に住んでいる		15.3%	14.2%	16.6%	16.3%	14.0%	11.6%	16.6%	18.2%	12.4%	22.8%
③ 岩手県外に住んでいる		26.5%	26.8%	25.0%	24.9%	30.3%	30.2%	25.7%	25.2%	23.9%	26.9%
④ まだわからない		46.8%	46.2%	45.6%	49.7%	47.3%	45.1%	47.4%	46.3%	53.8%	42.5%

質問3 進学先としてどの学科を希望しますか。

(H27 通学可能な範囲に次の学科がもし全てあるとしたら、進学先としてどの学科を希望しますか。)

選 択 肢	普通科系学科						職業系専門学科					計	総合学科	どの科でもよい	わからない	その他	
	普通科	理数科	外国語	体育	芸術	計	農業	工業	商業	水産	家庭						
全 県	設置学科	56.0%	1.5%	0.8%	1.2%	0.4%	59.8%	5.0%	13.9%	7.3%	1.2%	1.5%	29.0%	11.2%			0.0%
	(私立・市立舎)	(60.7%)	(1.2%)	(0.6%)	(0.9%)	(0.3%)	(63.6%)	(3.8%)	(10.9%)	(7.4%)	(0.9%)	(2.7%)	(25.7%)	(10.1%)			(0.6%)
	H30結果	56.0%	3.1%	1.1%	2.5%	1.0%	63.7%	2.9%	10.4%	6.3%	0.3%	2.7%	22.6%	6.9%	1.2%	4.2%	1.4%
	H27結果	48.6%	5.7%	2.1%	2.7%	2.6%	61.7%	3.2%	11.2%	6.3%	1.2%	5.0%	26.9%	6.5%	1.3%	2.7%	0.9%
両 磐 ブ ロ ッ ク	H20結果	47.1%	4.6%	1.6%	3.0%	2.5%	58.8%	4.4%	12.3%	7.8%	1.0%	8.3%	33.8%	6.0%	0.4%	0.7%	0.3%
	設置学科	50.0%	3.8%	0.0%	0.0%	0.0%	53.8%	3.8%	19.2%	3.8%	0.0%	0.0%	26.9%	19.2%			0.0%
	(私立・市立舎)	(64.1%)	(2.6%)	(0.0%)	(0.0%)	(0.0%)	(66.7%)	(2.6%)	(12.8%)	(2.6%)	(0.0%)	(2.6%)	(20.5%)	(12.8%)			(0.0%)
	H30結果	42.8%	7.0%	0.6%	1.1%	0.7%	52.2%	2.5%	14.3%	2.2%	0.0%	2.8%	21.8%	18.8%	1.1%	4.2%	1.9%
H27結果		37.2%	8.6%	2.6%	2.2%	3.9%	54.5%	3.2%	16.7%	1.9%	0.4%	4.5%	26.6%	12.5%	2.4%	3.2%	0.9%
	H20結果	42.5%	4.7%	1.8%	2.7%	2.3%	54.0%	4.1%	15.9%	5.0%	0.4%	8.2%	33.6%	11.5%	0.4%	0.5%	0.0%

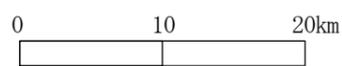
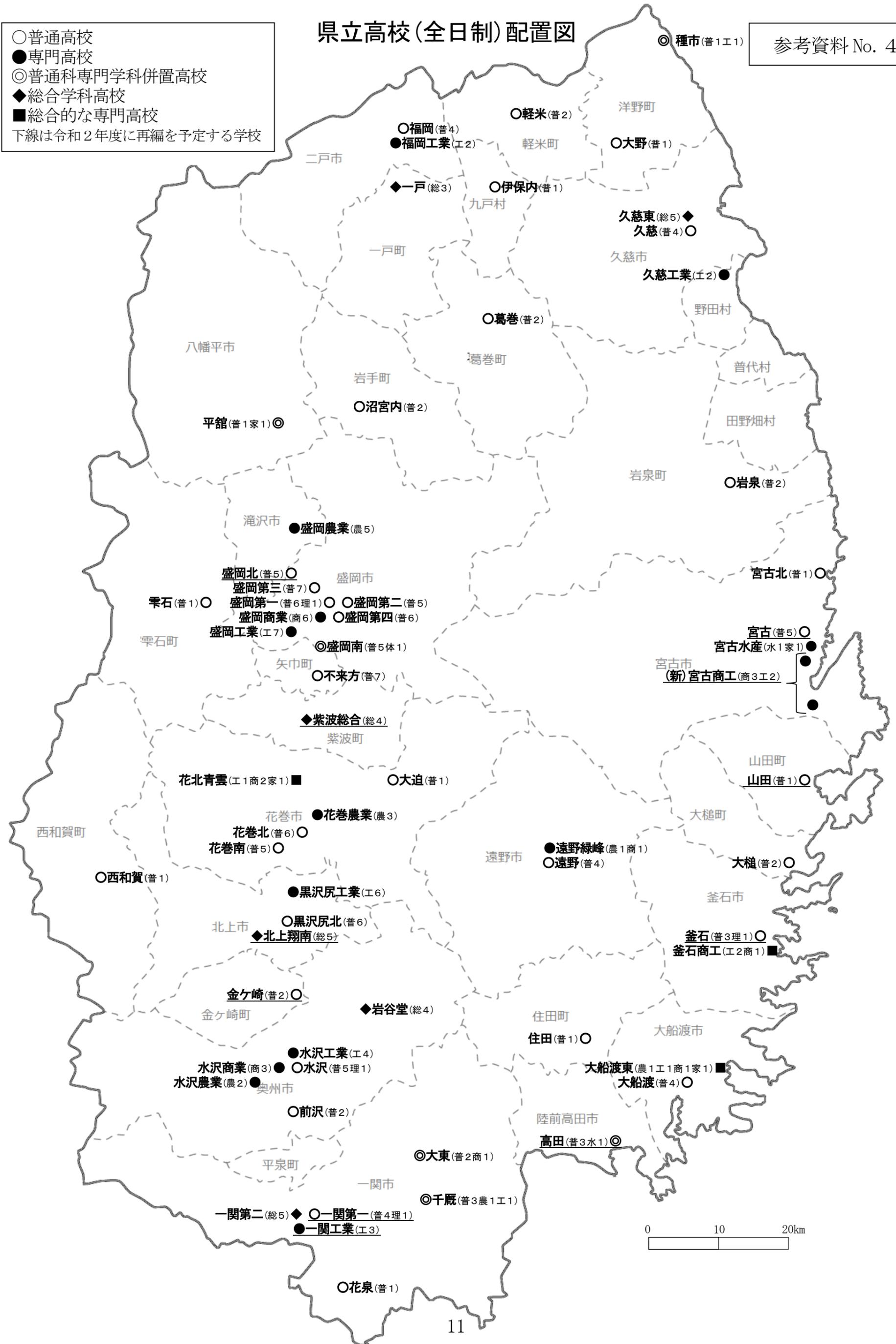


全県では、平成27年のアンケート結果より普通科系志望が若干増加している。設置学科割合（私立、盛岡市立高校を含む）は、中学生の希望する学科の割合とほぼ一致し、全県でみるとバランスの取れた学科配置となっている。両磐ブロックでは、特に総合学科を希望する割合が、設置学科割合（私立、盛岡市立高校を含む）を大きく上回っている。

県立高校(全日制)配置図

参考資料 No. 4

- 普通高校
 - 専門高校
 - ◎普通科専門学科併置高校
 - ◆総合学科高校
 - 総合的な専門高校
- 下線は令和2年度に再編を予定する学校



地域検討会議（第2回）の概要

1 実施状況

ブロック名	ブロック内 市町村名	実施日時	会 場	出席者数（事務局を除く）				
				会 議 構成員	県議会 議 員	県 立 高校長	一 般 傍 聴	報 道 関 係
盛岡①	滝沢市、雫石町、 葛巻町、矢巾町	5月28日（火） 10:00～12:00	盛岡市総合福祉センター	15	5	6	3	2
盛岡②	盛岡市、八幡平市、 岩手町、紫波町	5月29日（水） 10:00～12:00	盛岡市総合福祉センター	16	5	12	3	2
岩手中部	花巻市、北上市、 西和賀町	5月20日（月） 15:00～17:00	花巻市交流会館	14	6	9	8	2
胆 江	奥州市、金ヶ崎町	5月27日（月） 10:00～12:00	奥州市水沢地区センター	11	3	8	1	2
両 磐	一関市、平泉町	5月31日（金） 14:00～16:00	一関地区合同庁舎	9	5	6	2	4
気 仙	大船渡市、陸前高 田市、住田町	5月20日（月） 9:30～11:30	大船渡地区合同庁舎	12	0	4	2	2
釜石・遠野	釜石市、遠野市、 大槌町	5月17日（金） 14:00～16:00	あえりあ遠野	13	2	5	6	1
宮 古	宮古市、山田町、 岩泉町、田野畑村	5月24日（金） 14:00～16:00	シートピアなあと	15	1	7	5	1
久 慈	久慈市、洋野町、 野田村、普代村	5月30日（木） 10:00～12:00	久慈地区合同庁舎	17	2	5	5	2
二 戸	二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町	5月14日（火） 10:00～12:00	一戸町コミュニティセンター	18	3	5	1	3
計				140	32	67	36	21
				296				

2 会議内容

(1) 平成31年度の入試状況について

平成31年度の入試状況について、資料に基づき事務局から説明を行った。

(2) 第1回地域検討会議における主な意見等

第1回地域検討会議（平成30年12月～平成31年2月にかけて開催）における主な意見等について、資料に基づき事務局から説明を行った。

(3) 後期計画の策定に向けた意見交換

下記をテーマとして設定し、本県の高等学校教育の現状や、地域ごとの高校のあり方について意見交換を行った。

＜意見交換テーマ＞

- ・小規模校のあり方について
- ・少人数学級について

3 主な意見等

- ・教育の機会の保障の観点から、小規模校は存続させる方向で検討を進めるべきである。
- ・小規模校の教育の質を維持するとともに、魅力化に向けた取組がさらに必要である。
- ・小規模校については、地域と連携した教育モデルの構築が必要である。
- ・その他、ICTを活用した遠隔教育の推進、少人数学級の導入に向けた国に対する教員定数制度の改善要望、小規模校の魅力化に向けた自治体の支援等、様々な意見があった。

地域検討会議（第2回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡① (滝沢市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	5月28日(火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 5月22日に行われた定例記者会見において、「高校再編については、入学者数等の数字ありきでの議論はしない。」との県教育長の発言を高く評価している。 ・ 少子化の進行により、盛岡市内の学校についても統合しなければ、周辺地区の小規模校の定員が充足しないのではないかと。 ・ 葛巻高校の学級減は延期となっているが、再編計画の対象となっている地域の住民は安心して生活することができない。各市町村に最低1校は2学級以上の高校を存続させるべきである。 ・ 再編計画は数字ありきと感じている。雫石高校は、伝統芸能等、地元で根差した高校なので存続させるべきである。 ・ 特に生徒数の減少が著しい地域の小規模校については、予算措置により少人数学級を導入し、生徒を呼び込む取組が必要である。 ・ 県教委には、市町村と連携しながら県外生徒の受入れについて進めていただきたい。
盛岡② (盛岡市、八幡平市、 岩手町、紫波町)	5月29日(水) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国の認識として、地方力の向上のためには、小規模校を大切にすべきとの認識が高まっており、今後の学校教育においては、IoT技術を活用した「教育の質の保証と機会の保障」の両立に向けた取組が重要となる。 ・ 地元中学校の生徒は地元の高校に全員を入学させ、ITを活用した教育を推進する等、全国に先駆けた制度化が大切である。 ・ 1学級校の統合基準は、「20人以下の入学者数が2年連続」であるが、基準が定められていることで、入学者の確保に向けた努力ができる面もある。 ・ 総合学科高校の系列の見直しにより、学校自体の存在価値を見直す時期にきているのではないかと。 ・ 再編計画には、各市町村における地方創生の視点が盛り込まれているが、県教委は知事部局との連携をさらに図るべきである。 ・ 総合学科については現状維持ではなく、将来を見据えた視点での魅力づくりが必要である。 ・ 県がICT技術を導入する方針については支持するものであるが、教育の基本は「face to face」である。
岩手中部 (花巻市、北上市、 西和賀町)	5月20日(月) 15:00～17:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校は県教委として存続させることを前提とした上で、高校再編の方向性を明確に示すべきである。 ・ 小規模校の存続については、他県のように、地元からの入学者の割合が高いこと、学校活性化地域協議会の設置、多様な生徒の受入れ体制を整備していること等を考慮した基準も必要である。 ・ まちづくりや文化の継承には、地域の将来を担う人材育成が重要である。北上市内の中学校から、4割の生徒が地区外に進学している状況に驚いており、今後、県教委と情報交換を行い対応策を講じていく。 ・ 地域に貢献する高校こそ、地域に必要な高校であり、小規模校については地域と連携した教育モデルの構築が必要である。 ・ 少人数学級の導入により、特に専門学科においては専門性を高める教育が可能となる。現行制度の中でどのようなことができるのか、財政的な負担等について具体的に示しながら議論する必要がある。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
胆 江 (奥州市、 金ケ崎町)	5月27日(月) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> 岩手においては、教育の質の保証も大切であるが、地理的・経済的制約を受けている生徒でも希望する進路を実現できるよう、教育の機会の保障を重視すべきである。また、志願者数が少ないことを理由として、安易な統合を行うことは避け、地域の学校を残すための方策を自治体とともに考えることが重要である。 第1回地域検討会議において、会議構成員から出された様々な意見や提案に対しての具体的な方策案を県教委は示すべきである。その方策案について、さらに深い議論を展開していくことにより、より良い後期計画を策定できるものと考えている。 本県の現状として、少人数学級の導入を実現しなくても実質的な少人数教育が行われていることは承知した。少人数学級の導入によって教員数に不利益が生じないように、国に対する教員定数制度の改善要望を継続してほしい。
両 磐 (一関市、平泉町)	5月31日(金) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> 農業・工業については特色ある学科を増やすなど、産業人材の育成のあり方についての方向性を示すべきである。 全県的に生徒数の減少が続くことから、高校再編は避けられないことであり、再編計画は計画通りに進めるべきである。 地域の子どもたちが将来的に地元に戻り、地域に貢献する人材として活躍するためには、地域の学校で地域の文化を学ぶ教育体制を確立し、推進することが大切である。 全国的にICTを活用した遠隔授業への取組が推進されており、このような取組は、中山間地等に設置された小規模校で学ぶ生徒の学力を保証するために有効である。 現行制度において本県の高校教育に少人数学級を導入することは難しいことは理解しているが、モデル的に少人数学級を導入し、先進的に制度改革に取り組むことがあってもよいのではないか。
気 仙 (大船渡市、陸前高田市、住田町)	5月20日(月) 9:30～11:30	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に少子高齢化が継続することから、学校ではそのような社会の状況を伝える教育が必要である。小規模校は授業の開設科目等に制限があることから、中学生の高校選択にあたり、生徒・保護者に対する情報公開を積極的に行う必要がある。 大学入試制度の改革期でもあり、教育の質の保証はさらに重要となる。都市部と中山間地・沿岸部では教育環境が異なることから、知恵を出しながら岩手県としての取組を進めていく必要がある。 今後のさらなる少子化の中、学校規模の現状維持は難しいことから、小規模校については、生徒1人ひとりへの教育の質をどのように高めていくかが課題となる。 教育現場において教員数の確保は大切であり、現状の制度では少人数学級の導入が難しいことから、県教委の方針のとおり進めるべきである。 住田高校は、1学級を2学級編成とした少人数教育により進路実績を上げているので、教員が働きやすい環境となるよう、工夫をしながら少人数教育を進めていく必要がある。
釜石・遠野 (釜石市、遠野市、大槌町)	5月17日(金) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> 地域にとって「必要な学校」は、様々な観点から地域にとって「貢献している学校」であると言い換えられる。高校生が地域と密接に関わりあうことで、地域の活性化と文化の継承に資している。 高校生は地域創生の新たなパートナーである。高校の統合は貴重な地域の担い手がなくなることに繋がるので避けなければならない。現在の仕組みで立ち行かなければ、岩手の現状に合致した新たな枠組による「岩手の独自モデル」を創造しなければならない。 全県的な少子化に伴う高校再編が進められていくことに、大きな危機感を持っている。町としても、多くの子どもたちに地元の高校を選んでもらえるよう、学校の魅力化等への支援を行っていく所存である。 高校において、より良い学びの環境づくりに向けて少人数学級の導入が必要である。高校標準法等の国の制度により教員定数が不足するのであれば、地域の人材等を活用していく方策についても検討してよいのではないか。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>宮古 (宮古市、山田町、 岩泉町、田野畑村)</p>	<p>5月24日(金) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 山田高校の統合は、町の過疎化に直結することから反対である。地域の学校の存続に向けてどのように取り組んでいくか、今後のさらなる少子化の進行を踏まえ、高校再編は慎重に検討していく必要がある。 学校の魅力化に向けて教育活動の多様化を図るためには、一定規模が必要であるが、きめ細かな教育を受けられる小規模校のメリットも尊重し、近隣校との柔軟な連携等により解決を図るべきである。 いわて県民計画アクションプランにおける沿岸広域振興圏の取組方向として、地域経済を牽引する産業への就業者の定着を重点項目としているが、その役割を担うのが高校である。 田野畑村には高校が設置されていないことから、小中高の教育が継続するような体制を整備するべきである。 国に対する教員定数制度の改善要望を継続しているにもかかわらず、国が制度を改善する動きがないのであれば、要望の仕方を工夫していくべきではないか。
<p>久慈 (久慈市、洋野町、 野田村、普代村)</p>	<p>5月30日(木) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 教育の機会を保障する観点から、小規模校の統合を行うべきではない。 地域の活性化には小規模校の存在が大切であり、地元の産業等について理解をさせた上で、将来的に地域を担う人材となるよう、キャリア教育を充実させる必要である。 地域の高校を残し、地域社会で活躍する人材の育成が大切である。また、工業等の専門学科を卒業した生徒が大学に進学できる仕組みづくりも必要である。 学校は地域の人材を育成するために必要な存在である。地域との連携による地元就職の視点から、特に1学級校で学ぶ生徒に対し、インターンシップ等を通じて地域企業の魅力を伝えることが大切である。 久慈地区内の学校においても、ITを導入した学習ができるような教育環境の整備が必要である。 中学校では少人数学級が導入されているが、地区内の中学校には個別対応が必要な生徒が多く在籍しており、担任の負担を軽減させるために、各学校には支援員を導入して対応している状況である。
<p>二戸 (二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>5月14日(火) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> 県北部では、県北振興の施策を掲げて地方創生に取り組んでいることから、高校再編については、地域と一体的な町づくりの観点から検討する必要がある。 2013年から地区内の事業所への就労者が減少している。地域を支える産業が減少している状況を踏まえ、持続可能な社会を構築できる学校教育の環境整備を行うべきである。 1学級校は、教育の質の保証の観点から手詰まり感がある。中山間地は地域人材が不足しており、県教委には、学校教育に協力できる人材の確保に協力してほしい。(財政的な面については協力していきたい。) 県北・沿岸部の教育の質の保証に向けて、教育予算については充実した配分となるようお願いしたい。 少人数学級を導入することで教員数が確保できない現状の制度であれば、県費による加配措置をするべきである。 すでに実質的な少人数学級が多い状況にあるが、学級数を維持する観点から、あえて少人数学級の制度を導入するべきである。

地域検討会議（第1回）の主な意見等

ブロック	開催日	主な意見・提言等
盛岡① (八幡平市、岩手町、 滝沢市、紫波町)	1月7日(月) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校再編においては、高校が地域人材の育成を担っているという視点が重要である。 ・ 県外から生徒を受入れる体制を構築してほしい。 ・ 学級減に伴う加配など、県の支援策があれば地域が納得するのではないかと。 ・ 地域に高校が存在することは町づくりと直結している大事な要素であり、高校の存在は町の存続のキーである。 ・ 県外のみならず、外国からの生徒の受入れの視点も必要である。 ・ 1学級定員40人の基準を見直すべきである。 ・ 現在の再編計画は、様々な意見を集約して策定されたもので評価している。 ・ 紫波総合高校については、総合学科の学習内容を精査し、魅力ある学校づくりを進めていく必要がある。 ・ これから岩手を支える人材として、工業系人材の育成は必要である。
盛岡② (盛岡市、雫石町、 葛巻町、矢巾町)	1月28日(月) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 都市部、沿岸部、中山間地それぞれでの高校の役割があり、多様な生徒への対応や地域産業の担い手育成という視点も高校再編においては大切である。 ・ 雫石町は交通の便を考えると都市部に分類されるかもしれないが、町の面積が約609km²と広く、雫石高校が無くなると高校への通学が困難になる地域もある。 ・ 現在のままでは近隣の市町村で生徒の奪い合いになるので、後期計画では県外からの生徒の受入れ制度について強く打ち出し、発展的な再編計画としてほしい。 ・ 県としても各市町村と協力しながら県外生徒の受入れ制度をつくり、地域の高校の存続について考えてほしい。 ・ 併設型の中高一貫教育校である一関第一高校附属中学校へは遠方から入学する生徒もいるため、後期計画では盛岡地域での中高一貫教育校の設置も検討すべきである。 ・ 県内の中学校卒業生数が減っていく中、矢巾町の生徒数は10年後も殆ど変わらない状況が続くため、地元の不來方高校については、存続をお願いしたい。 ・ それぞれの地域には様々な産業があり、企業等での体験学習や地域人材による講話等、地域との交流は学校の魅力づくりにつながると思う。
岩手中部 (花巻市、北上市、 西和賀町)	2月8日(金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期計画の策定に当たっては、進学実績のある高校の盛岡一極集中を見直すことも検討してもよいのではないかと。 ・ 後期計画は地域の学校の役割を重視しつつ、「岩手ならではの」特徴的な計画としてほしい。また、併設型中高一貫教育校の新設についても検討してもよいのではないかと。 ・ 高校は地域の「まちづくり」「ひとづくり」に欠かせない存在である。「高校の魅力づくり」について、市としても積極的に支援していきたいと考えている。 ・ 高校の募集停止・統合は、地域の賑わいを無くしてしまう可能性があり、結果として地域が衰退してしまうということも考えられることから慎重に検討する必要がある。 ・ 地域との連携・協働が進んでいる高校をやむを得ず再編する場合には、地域との連携を継続できる環境づくりについても配慮する必要がある。 ・ 後期計画の策定に当たっては、特別な支援を要する生徒への適切な指導や支援体制の充実の観点も大事にしながら検討する必要がある。 ・ 岩手県は広い県土を有することから、一律の基準によらない柔軟な対応も必要である。 ・ 後期計画においても、「特例校」の制度は堅持していただきたい。また、各地域の地方創生の取組の状況や社会情勢の変化等も踏まえた検討が必要である。 ・ ものづくり企業の進出による人口の社会増等、後期計画の策定に当たっては、このような社会情勢の変化も考慮した上で検討を進める必要があると考えている。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
胆 江 (奥州市、金ヶ崎町)	12月25日(火) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校であっても地域には学校が必要であるという観点から、学級減はやむを得ないとしても、学校の統合は最低限にとどめ、地域の学校をどのように残していくべきかの視点で高校再編を考えるべきである。 ・ 地域から学校を無くすことは、地域として適切な教育環境をいかに維持するかの課題に大きく影響することである。 ・ 本県は東北を代表するものづくり先進県として職業人の育成に力を入れており、工業系の学校は維持しなければならない。 ・ 本県は広大な面積を有することから、本県独自の考え方による地域別の再編計画が必要である。地域ごとに望ましい学校規模の基準を設けるべきである。 ・ 学力の保証が重要視されていることもあり、さらに取組を推進するのであれば、再編計画において1学級の定員にも目を向けて教育環境の整備を進める必要がある。
両 磐 (一関市、平泉町)	1月18日(金) 10:00～12:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 後期計画の具体的な検討を進める過程で、募集定員や設置学科等について、県立高校と私立高校との調整が必要となる場面が出てくる可能性もあると思われる。今後、私立高校の状況も考慮に入れながら後期計画の策定を進めてほしい。 ・ 特別な支援を必要とする生徒数が増加していることから、高校においても、今まで以上に特別な支援を必要とする生徒への対応が必要になる。 ・ 後期計画策定に当たっては、少子化の進行や人口減少の状況、県の産業振興の方向性、産業界の動向・ニーズ及び地域の方々の意見を十分に聞きながら、県全体の状況をしっかりと把握した上で検討を進めてほしいと考えている。また、策定した計画は、確実に実行するという姿勢で臨んでいただきたい。 ・ 後期計画の策定においては、中山間地・沿岸部の1学級校のあり方についての検討及び通学支援策の検討が必要になるのではないか。
気 仙 (大船渡市、陸前高田市、住田町)	2月7日(木) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校教育においては、将来、地域医療を支えるような優秀な人材もしっかり育てていくという視点も必要である。 ・ 少子化が進む中においては、高校の統合等を検討することは、やむを得ないと思われるが、統合により公共交通機関での通学が困難になる場合には、通学支援策を検討することも必要である。 ・ 後期計画の策定に当たっては、これからの岩手を支える人材をどのように育てていくかという視点も必要である。 ・ 沿岸部、中山間地のそれぞれの地域の高校には役割があり、地域の将来を担う人材の育成の視点も高校再編を考える上で重要である。 ・ 専門高校と比べ普通高校は学びの特長を出しにくいように思う。学校ごとに学びに特色を持たせるなど、魅力ある学校づくりに取り組む必要がある。
釜石・遠野 (釜石市、遠野市、大槌町)	12月27日(木) 14:00～16:00	<ul style="list-style-type: none"> ・ 岩手大学釜石サテライト内に設置されている三陸水産研究センターや釜石・大槌地域産業育成センターと連携した高校のあり方を模索するべきである。 ・ 地域における高校の必要性や重要性を、十分理解した上で後期計画の策定を進めていただきたい。 ・ 後期計画の策定に当たっては、新たな設置基準による少人数学級の導入等についても検討し、全国的に見ても特徴的な岩手型の再編計画を策定してはいかがかと考える。 ・ 小規模校の中には、今後も存続させる必要のある学校が多くあると考えている。子ども達、それを支える地域の方々を地域との連携による教育の充実の中にどのように位置づけるのかについて考える必要がある。夢のある計画を示していただきたい。 ・ 遠野高校では地域課題の発見、解決に向けた取組を行っており、地域と密着した教育を進めていくことが、これからの中山間地・沿岸部の教育のあり方であると考えている。 ・ 県立高校が市町村と連携を強化し、魅力化を図るということが必要である。 ・ 小規模校においてもコース制を取り入れるなどして、様々な産業に対応する学びの機会を設けることが必要であると考えている。

ブロック	開催日	主な意見・提言等
<p>宮古 (宮古市、山田町、 岩泉町、田野畑村)</p>	<p>1月15日(火) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後は生徒確保に向けた自治体間の競争が加速していくと思われる。学校の魅力を高めることで地域外から生徒を集める視点が大切になる。 ・ 宮古管内には、より高いレベルで部活動や勉学に取り組みたいと考え、管外の高校を希望する志の高い生徒もいることから、高校の選択肢を大切にした後期計画が必要である。 ・ 地域の学校を統合せずに残す方策として、都市部の生徒数が多い学校の学級数を減じることも考えられるのではないかとと思われる。 ・ 後期計画の策定に当たっては高校教育と町の教育が力を合わせ、子どもたちの地域産業に対する理解や地元に対する意識・愛着を高めていく仕組みづくりも必要であるという視点で検討をしなければならないと感じている。 ・ 県教委は、各地域の実情に配慮し、10年間の再編計画を策定していると認識している。後期計画の策定に向けた検討に当たっても、地域で学ぶ教育環境をしっかりと守るという再編計画の基本的なスタンスを変えない姿勢であることを望む。 ・ 後期計画を策定するに当たり、小規模校については、学級数を維持することで教員数を確保できるよう、30～35人学級を実現させてほしい。 ・ 各市町村においては、人口ビジョンや地域戦略を策定して取り組んでいる。岩手県で生活したいと思われるよう、教育に対する取組が積極的な県であることを打ち出すという視点でも高校再編を進めてほしい。 ・ 宮古地区にとって水産、工業、商業に関する専門学科は必要であり、入学者が定員を下回っても存続させながら、今後の専門教育のあり方について考えてほしい。
<p>久慈 (久慈市、洋野町、 普代村、野田村)</p>	<p>2月4日(月) 14:00～16:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒数の減少に伴い学級数を減じていくことについては理解しているところではあるが、これにより配置される教員数も減少することから、今後、生徒の学力をどのように維持させていくのが重要になってくると考えている。 ・ 再編計画においては、望ましい学校規模を原則4～6学級としているが、これだけ人口減が進行している社会情勢の中にあっても小規模校を統合することにより4～6学級を確保する必要があるのか疑問を感じている。 ・ 中山間地では、通学条件等の面で教育を受ける機会の保障が難しいことから、高校再編においては都市部と同様の視点で考えるのではなく、地理的な条件も踏まえた、柔軟な考え方で検討するべきである。 ・ 全国的に人口減少が進行している中、子どもの数のみで学校再編を考えるのではなく、子どもたちにとって今後の学校教育に何が必要であるかという視点で、これまでの考え方に捉われない高校再編を行うべきである。 ・ 生徒にとっては高校の選択肢は多い方がよいので、統合して学校や学科を減らすのではなく、存続させる方向性で検討してほしい。
<p>二戸 (二戸市、軽米町、 九戸村、一戸町)</p>	<p>12月26日(水) 10:00～12:00</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口が減少する中であって、学校の統合は避けられないと考えているが、「地域の将来を担う人材育成」を進める地域の取組や特殊事情等も考慮した上で進めてほしい。 ・ 二戸地区全体として「普通高校のあり方」及び「専門高校・総合学科高校のあり方」を考えていかなければならない時期に来ているのではないかと。 ・ 学級減や統合等の議論は、時の流れとしてやむを得ない部分もあるが、地域を担う人材の育成等、様々な観点から高校再編の検討を行っていただきたい。 ・ 学校間連携の仕組みを工夫する等の具体的な施策の実施により、小規模校においてもその魅力が損なわれないよう、県の積極的な関与をお願いしたい。 ・ 後期計画の策定の際には、地域の中で小規模校が存続でき、かつ、生徒が満足した高校生活を送れるような環境・条件づくりについても検討を進めていただきたい。 ・ 子どもたちの進路目標の多様化も踏まえ、二戸地区としてどのような教育体系(学校・学科の配置)が必要なのか、改めて検討する必要がある。 ・ 地元自治体や企業が学校の魅力づくり等を支援する取組が進んでいることから、再編計画を早急に出すのではなく、取組の成果を見守ることも選択肢のひとつではないかと。

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第2回）両磐ブロック 会議録

【両磐ブロック：一関市、平泉町】

○ 日 時：令和元年5月31日（金）14時00分～16時00分

○ 場 所：一関地区合同庁舎 3階 大会議室

○ 出席者

① 会議構成員

一関市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

平泉町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

県南教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般2人、報道4人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

1 平成31年度の入試状況について

【県教委】

- ・ 資料 No. 1-1 「平成31年度の入試状況について」、資料 No. 1-2 「平成31年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等一覧表（全日制）」に基づき説明。

2 第1回地域検討会議における主な意見等

【県教委】

- ・ 資料 No. 2 「第1回地域検討会議における主な意見等」に基づき説明。

3 後期計画策定に向けた意見交換

<意見交換テーマ>

- (1) 小規模校のあり方について
- (2) 少人数学級について

(1) 小規模校のあり方についての御意見

【県教委】

- ・ まず、小規模校のあり方について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料 No. 3 「新たな県立高等学校再編計画の概要」、資料 No. 4 「小規模校のあり方について」に基づき説明。

【勝部 一関市長】

- ・ 県内の高校は、普通科の設置割合が高いと認識しているが、県教委としては、今後も普通科の設置を中心として進めていく考えであるか伺いたい。生徒が高校を選択する際、学科の選択肢が増えることで、目的を持って入学する生徒が増加し、学校の特色を発揮できるのではない

かと考えている。

- ・ 行政の視点として、専門教科を学ぶことができる総合学科高校は、行政と連携しながら積極的に地域づくりに取り組んでいる。今後の学科改編については、普通科に代わり、時代のニーズを先取りした特色ある学科を設置し、その学科が高校教育の中心となっていくなど長期的な見通しがあれば伺いたい。

【県教委】

- ・ 県内の中学生の進路希望については、昨年度、県内の公立、国立の中学校3年生全員を対象にアンケート調査を実施している。平成27年度も同様のアンケート調査を実施しており、普通科系の学科を希望すると回答した生徒が前回に比較して若干増加する結果となっている。
- ・ 県内の高校における学科の設置割合については、平成29年の全国の都道府県と本県の学科の設置状況を調査した結果では、本県の高校に占める普通科の設置割合は約6割（全国で35番目）と低い数値となっている。また、専門学科は約3割（全国で19番目）、総合学科は約1割の設置状況で、全国と比較しても高い数値となっている。
- ・ 政府の教育再生実行会議において、全体の7割を占める普通科については、生徒の多様な能力、関心に対応するため、国際的に活躍できる学びや、科学技術分野をけん引できる人材の育成、地域課題を解決するための学びに向けた見直しについての提言が行われている。現時点では、国による今後の方向性について、明確に示されていないが、全国的に問題意識が高まっており、今後、普通科が特色ある学びに対応する学科として見直されていく可能性はあると考えている。

【勝部 一関市長】

- ・ 普通科を選択する生徒が増加している背景として、将来の進路に対して消極的な意識であり、普通科以外に選択する具体的な進路希望を持ち合わせていないということの表れではないかと考える。普通科に進学すれば、その後の進路目的の変更に対応することが可能とは考えるが、生徒がどのような学びを希望し、高校を選択しているのかについて、実情を把握する必要があると考える。
- ・ 高校は地域の人材を育てる教育機関であることから、県によるものづくり産業の推進や、第一次産業の後継者の育成が課題となる中で、県教委として明確に育成する人材の方向性を示し、世の中の速い流れに対応することが重要と考える。

【県教委】

- ・ ものづくり人材も含めた人材の育成は本県の高校教育において重要なことと考えている。将来の進路に向け、目的を持って専門高校に入学する生徒も多数おり、そのような生徒は、高校入学前から志望する高校の授業内容を理解した上で高校を選択している。学びの内容を紹介する取組は各高校で行われており、早い段階から将来の進路意識を持つことは重要と考える。

【小菅 一関市教育委員会教育長】

- ・ 一関市内の高校では、地域の行事に参加する機会が多くなり、地域と結び付く高校という印象が以前より強くなっている。国による地方創生に向けた有識者会議の答申において、都市部への人口一極集中を解消し、地方創生を進める提案として、高校教育の中で地域の産業や文化を教えていく必要があるとされている。また、地域外へ移住した場合においても、将来的には地域に戻る流れを作る取組も必要であり、今後、地域の高校の存在がさらに重要となると考えられている。

- ・ 他県の小規模校の取組において、学校の偏在により統合が進まない過疎地域にありながら、学校間でICTを活用した遠隔授業を行う取組があり、ICTを活用した取組は小規模校の学力を保障する上で有効と考える。県教委としても他県等のICTの活用事例を調査し、時間をかけて研究していくことが必要であると考えます。
- ・ 現在、1学級校が8校あるとのことであるが、統合の基準を定め、基準に該当した場合は統合を判断するという方針に異議はないが、今後の1学級校の設置数及び、統合基準により統合の対象となる学校数についての試算等があれば伺いたい。

【県教委】

- ・ 今後の統合対象校や1学級校の見込みについては、中学校卒業者の進学状況により入学者数が変わることから、対象となる学校を想定した試算はしていないもの。
- ・ 遠隔教育については、昨年度まで山間地の高校でモデル的に取り組んでおり、今年度は、対象校を拡大する方向で進めている。技術の進展により小規模校の教育の質の維持につながると期待が大きいですが、対話的な教育の必要性も踏まえながら、実用化に向けていきたいと考える。
- ・ 高等学校新学習指導要領においても、地域の中で探求的に学ぶ観点は重要視されており、今後、地域と連携した学びの方法等について検討を進めていく必要があると考える。

【岩淵 平泉町教育委員会教育長】

- ・ 資料7頁 No.4の「地域人材の育成に関する項目」の中で、地元の中学校から入学する割合が高い小規模校の取組があるが、実態としては、近隣の市町村からの入学者により高校を維持している小規模校もある。地域の担い手の育成や特性を活かした学びは大事なことであるが、近隣の市町村を含めた広い地域という捉え方で学校の特色を見出すことも必要と考える。
- ・ 資料6頁 No.4の「教育課程における科目の開設状況」の中で、小規模校の科目開設の課題が示されているが、高校標準法による限られた教員の配置により、小規模校においては、複数の科目の開設ができない状況にあることから、国に対し、教職員定数の改善を強く訴えていく必要がある。
- ・ 県が独自に予算措置し、教員を配置することも重要と考えるが、高校標準法の算定方法が一般には理解されていないことから、普通高校や専門高校の教員の配置基準について情報提供をお願いしたい。

【県教委】

- ・ 資料7頁 No.4の「地域人材の育成に関する項目」の小規模校の取組については、例として地元の中学校からの入学割合が高い高校は存続させるという観点から取り上げた例であり、生徒の通学手段など様々な観点が考えられる。
- ・ 教員の配置については、高校標準法の算定基準に基づき、普通科、専門学科それぞれ算定した教員数を県で調整しながら各校に配置しているもの。なお、教員定数の改善については、これまでも国への要望は行っているもの。

【西 一関市PTA連合会副会長（一関市立藤沢中学校PTA会長）】

- ・ 資料6頁 No.4の「教育課程における科目の開設状況」についてであるが、自分の子供が高校を選択する際、高校卒業後に進学する目標があったことから、高校の科目の開設状況を確認した上で、現在の高校へ入学している。
- ・ 小規模校が増加する状況で、多くの科目を開設できない小規模高校同士が連携し、長期休業中に単位修得に向けた補習授業を行うなどの対応が可能であるか伺いたい。

- ・ 資料3頁「新たな県立高等学校再編計画の概要」中で、統合した場合には校舎制の導入も検討するということであるが、校舎間の距離や範囲はどの程度を想定しているのか伺いたい。

【県教委】

- ・ 再編計画では、統合する場合の形態の選択肢として校舎制も検討することとしており、現在、令和2年度の統合が決定している宮古地区の2校において、両高校の既存校舎を使用した校舎制による統合の準備を進めているところ。校舎制の導入については、統合検討委員会を立ち上げて検討していくものであるが、生徒や教員の移動が、可能な範囲を想定している。

【県教委】

- ・ 現在、各校で行われている長期休業中の補習授業は、授業時数の不足等に対する補習であり、高校の判断に基づき行われている。単位修得に向けた課外授業については、教育課程への位置付けが重要であり、年間の授業計画に組み込む必要がある。教員が複数校を兼務して授業を受け持つことは現在も取り組まれており、そのような形での地域の高校同士の連携は可能と考える。

【高橋 平泉商工会会長】

- ・ 地域に必要な高校とは、地域の産業に関連した学科を設置する高校と考える。新たな学科の設置には、入学者の確保や、学科の将来性等について十分な検討が必要であるが、平泉町であれば、考古学や仏教に関する学科があってもいいのではないかと考える。
- ・ 地域に必要とされる高校であれば小規模校となった場合も存続は必要であり、工夫を見出すことで学校の維持は可能と考える。

【菅野 ㈱日ピス岩手総務グループリーダー】

- ・ 生徒の採用に携わっている、企業の視点として、工業系の製品を扱う当社としては、機械や電気、電子などの学科で技術を習得した生徒を採用し、企業のレベルアップに直結させたいという考えがある。
- ・ 高校へ進学する時点で将来の進路を考えた学科を選択することは、目的意識があり良い傾向と考えるが、近年の企業の状況としては、求人数を上回る応募がほとんど無い状況であり、高校で専門技術を習得していない人材も採用しなければならないことが多い。
- ・ 専門的な技術や知識を持たない新入社員に対しては、時間をかけて技術指導等を行う必要がある。一方で、専門高校で学んだ生徒については、専門的な知識や技術が身に付いていることから、生徒数が減少したとしても、専門学科については存続させていただきたいと考える。

【齋藤 平泉町副町長】

- ・ 再編計画については、すべて計画どおり実施すべきと考えており、生徒数の減少が続く状況においては、必ずどこかの高校を統合せざるを得ない状況になると考える。地域から学校の存続を望む声があることは承知しているが、例えば統合後の空き校舎を活用し、大学や専門学校等を設置するとなど、高校教育の枠を超えた発想への転換も必要ではないかと考える。

【福井 一関地方校長会会長（一関市立一関中学校長）】

- ・ 生徒数の減少により1学級となった際に、すぐに統合を検討するのではなく、「2年連続で20名以下の入学者のとなった場合」という基準を定めていることから、現在の基準は維持すべきと考える。

- ・ 住んでいる地域に高校があることは望ましいと考えるが、生徒の高校への通学費の負担を考慮し、進学を諦める生徒がないよう計画を進めていただきたいと考える。

【鈴木 平泉町立平泉中学校PTA】

- ・ 保護者の立場から、子供が高校へ進学すると送迎などで広域に移動することが多くなり、生徒中心の生活となる。
- ・ 生徒は、近くに高校がなくなった場合、置かれた環境で生活しなければならないことから、高校への進学を諦めたり、高校の選択肢が限られないよう地域の高校への進学を希望する生徒達がいるのであれば、小規模校であっても存続させるという方向性を示していただきたいと考える。

【県教委】

- ・ 地域の産業に関する学科の設置が必要ということであるが、学科の設置については、生徒数の減少が続く中で、既存の学科の廃止や生徒、保護者のニーズ等を踏まえながら、設置学科の継続の見込みや卒業後の進路など総合的に勘案しながら検討し、判断する必要があると考える。
- ・ 1学級校の中にも存続させる必要のある高校があると考えており、教育の質の維持や生徒数の減少による部活動の状況等を踏まえながら検討したい。

(2) 少人数学級についての御意見

【県教委】

- ・ 次に、少人数学級について事務局から説明させていただき、その後、このことについて御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料 No. 5 「少人数学級について」に基づき説明。

【小菅 一関市教育委員会教育長】

- ・ 高校標準法による国からの財政措置は、高校の募集定員数で決定することから、1学級の定員を35人とした場合、教員の配置が少なくなるという認識でよいか伺いたい。
- ・ 全国で少人数学級を導入している都道府県では、独自で予算措置をしているのか伺いたい。

【県教委】

- ・ 高校の教員定数については、高校標準法により、収容定員に基づき算定されるもの。
- ・ 収容定員を充足している学校については、教員の配置数は変わらないことも考えられるが、収容定員を下回る学校においては、教員の配置数は少なくなると思われる。

【福井 一関地方校長会会長（一関市立一関中学校長）】

- ・ 高校教員の配置については、募集定員により決定されるということであるが、学校ごとに少人数学級を導入することも可能か伺いたい。

【県教委】

- ・ 学校ごとに少人数学級の導入を検討することも可能であるが、県全体としての募集定員は減ることとなる。

【福井 一関地方校長会会長（一関市立一関中学校長）】

- ・ 前期計画では、一関第一高校は来年度に学級減となる計画であるが、同校は定員を充足している状況であることから、現状の定員 40 人を少人数学級の導入により 35 人とすることで学級数を維持し、教員数や定員の減少を緩和させることは可能であるか伺いたい。

【県教委】

- ・ 仮に大規模校であれば、教員数の配置は変わらない可能性もあるが、再編計画による学級減と少人数学級の導入による学級減については別の視点として考えていただきたい。
- ・ 全国の少人数学級を導入している都道府県による単独の予算措置については、全てを把握している訳ではないが、独自に予算措置を行っている都道府県は確認しておらず、全体に配分された教員数の中での調整により各学校への教員配置が行われていると伺っている。

【勝部 一関市長】

- ・ 教育の主役は生徒であり、それを支える教員の増減は大きな問題と考える。現在の制度上、教員数を増やすことは難しいことと承知しているが、少人数学級を導入した地域をモデル的に定め、制度の改善の切り口にできないか。このことが契機となり、全国的な制度改善への動きにつなげていくことも必要と考える。
- ・ 一関市内においても人口の減少が続く中、市内には 2 校の私立高校が設置されており、将来的には、県立高校と同様に存続させることが課題となるのではないかと考えているところ。解決策を講じるためには大胆な発想が必要と考えており、県教委としては、私立高校の状況等についても勘案しながら、思い切った取組が必要と考える。

【小菅 一関市教育委員会教育長】

- ・ 後期計画の中では、高校の再編が中心になると考えられるが、今後、最大で 14 校を削減する必要があることが報道されている。後期計画では再編の基準を定め、基準に該当する高校の再編を進めていくのか、あるいはあらかじめ対象となる高校を示した上で再編を進めていくのかについて方向性を伺いたい。

【県教委】

- ・ 再編計画は平成 28 年 3 月に策定したものであるが、最大で 14 校の学校の減少というのはその当時の推計による生徒数や学級数を基に、設置する学科数や学校数の見通しを示したものであり、その数字を目指す計画としてお示ししているものではない。前期計画においては、2 地区についての統合を延期していること等、生徒の進学状況の変化や社会情勢の変化、地域の取組状況等により検討することとしている。
- ・ 再編計画では、1 学級校の統合に関する取扱いと特例校として扱う学校を示しているが、後期計画において、統合基準及び該当する高校を示すこととするかについては今後の検討となるが、何らかの形で該当する高校の見通しが立つ示し方が必要と考える。
- ・ 少人数学級について、現行制度の枠組みを超えたモデル的な取組を推進するべきとの意見があったが、今後、可能な範囲で検討していきたいと考える。

【菅野 ㈱日ピス岩手総務グループリーダー】

- ・ 生徒数の減少が続く中で、今後、学級の定員が 40 人から 35 人、30 人という方向性で進んで

いくことを想定しているのか伺いたい。

【県教委】

- ・ 1学級の定員については、現在の制度を前提とすれば、現状の40人定員とすることのメリットが大きいと考えているが、国に対しては、少人数学級を含め、教員を手厚く配置できる制度となるよう要望を続けているもの。
- ・ きめ細かな指導に対応できる少人数学級を導入することも必要であるが、特別な支援を要する生徒への対応や専門的な分野の教育を充実させる少人数教育への取組も必要と考えており、国の方針が示されていない現時点では、どちらの方向へ進めていくべきか、明確に申し上げることはできない。

【西 一関市PTA連合会副会長（一関市立藤沢中学校PTA会長）】

- ・ 現在、子供が通う高校は、1学級32名が在籍しており、3クラスの編制となっている。より良い教育環境を維持するためには、生徒数が少なくても教員を手厚く配置することが必要と考えている。
- ・ 小中学校においても、児童数を基準として教員を配置していることから、毎年、教員数の増減があり、学校運営の支障や教員の業務負担につながっている。教員の負担を減少させるためには、配置基準の緩和が必要であると考えている。

【県教委】

- ・ 地域の特性や産業を踏まえた学科の設置や普通科のあり方、少人数学級のモデル的な取組等についてなどさまざまな意見を伺い、さらに次回以降の議論を含め、後期再編計画の策定を検討していきたいと考える。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第2回)【両磐ブロック】

出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	一関市	勝部 修	一関市長	
2		菅野 秀夫	㈱日ビス岩手 総務グループリーダー	
3		西 洋知	一関市PTA連合会 副会長 (一関市立藤沢中学校PTA会長)	
4		小菅 正晴	一関市教育委員会 教育長	
5	平泉町	齋藤 清壽	平泉町 副町長	代理
6		高橋 幸喜	平泉商工会 会長	
7		鈴木 園恵	平泉町立平泉中学校PTA	代理
8		岩淵 実	平泉町教育委員会 教育長	
9	地区中学校長代表	福井 信夫	一関地方校長会 会長 (一関市立一関中学校長)	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
10	県議会議員	佐々木 朋和	岩手県議会議員	
11		千葉 進	岩手県議会議員	
12		神崎 浩之	岩手県議会議員	
13		飯澤 匡	岩手県議会議員	
14		高田 一郎	岩手県議会議員	
15	県立高等学校	遠藤 可奈子	一関第一高等学校長	
16		中崎 ゆかり	一関第二高等学校長	
17		村上 智芳	一関工業高等学校 副校長	
18		千葉 治	花泉高等学校長	
19		鈴木 勝博	大東高等学校長	
20		石川 克紀	千厩高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
21	県教育委員会事務局等	時枝 直樹	県南教育事務所長	
22		和賀 真樹	県南教育事務所指導主事	
23		佐藤 一男	教育次長兼教育企画室長	
24		里館 文彦	学校教育課首席指導主事兼高校教育課長	
25		軍司 悟	学校調整課首席指導主事兼産業・復興教育課長	
26		森田 竜平	学校調整課学校調整担当課長	
27		藤澤 良志	学校調整課特命参事兼高校改革課長	
28		市丸 成彦	学校調整課高校改革担当指導主事	
29		小野寺 一浩	学校調整課高校改革担当指導主事	
30		女鹿 光介	学校調整課高校改革担当主査	

